

安全データシート

東洋グリーン株式会社
作成日 2022 年 6 月 20 日
改訂日 2025 年 3 月 28 日

製品名 ダイヤモンドプロ・マウンド/ホームプレートクレイ

1. 製品及び会社情報

対象物の名称

製品名 ダイヤモンドプロ・マウンド/ホームプレートクレイ
英名 Diamond Pro Mound /Home Plate Clay
社内 SDS 整理番号 202206F
一般名 粘土
製造元
会社名 Diamond Pro
住所 1112 E. Copeland Road, Suite 500
Arlington, TX 76011
電話番号 +1-800-228-2987
輸入元
会社名 東洋グリーン株式会社
住所 〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町 2-33-8
電話番号 03-3249-7731
担当 毒物劇物取扱者

用途

本製品は、野球場、ソフトボール場のピッチャーマウンド、ブルペン、キャッチャーボックス、バッターボックスの造成、維持、補修に使用される粘土製品です。

2. 危険有害性の要約

ピクトグラム

注意喚起語
危険有害性

注意書き

危険

H350 発がんのおそれ (区分 1 A)
H372 長期にわたる又は反復ばく露による呼吸器、免疫系、腎臓の障害
P201 使用前に取扱説明書を入手すること。
P202 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
P280 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
P281 指定された個人用保護具を使用すること。
P260 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
P264 取扱後は手や顔をよく洗い、うがいをする事。
P270 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
P308+P313 ばく露またはばく露の懸念がある場合: 医師の診断/手当を受けること
P314 気分が悪い時は、医師の診断/手当を受けること。

P405施錠して保管すること。

P501 内容物/容器は法令に従って廃棄すること。

本製品は、結晶質シリカを含んでいます。空気中の結晶質シリカに長期間、繰り返し暴露されると、肺機能の障害を特徴とする進行性の肺線維症である珪肺症になる可能性があります。

珪肺症や呼吸器系、眼、皮膚への刺激の可能性を最小限にするため、粉塵暴露をセクション 8 に記載された職業暴露レベル以下に維持することが推奨される。通常の使用条件下では、本製品への曝露による悪影響はありません。

GHS による危険性・有害性の分類

危険性

爆発物	区分に該当しない
可燃性ガス	区分に該当しない
エアゾール	区分に該当しない
酸化性ガス	区分に該当しない
高压ガス	区分に該当しない
引火性液体	区分に該当しない
可燃性固体	区分に該当しない
自己反応性化学品	区分に該当しない
自然発火性液体	区分に該当しない
自然発火性固体	区分に該当しない
自己発熱性化学品	区分に該当しない
水反応可燃性化学品	区分に該当しない
酸化性液体	区分に該当しない
酸化性固体	区分に該当しない
有機過酸化物	区分に該当しない
金属腐食性化学品	区分に該当しない
鈍性化爆発物	区分に該当しない

有害性

急性毒性：経口	分類できない
急性毒性：経皮	分類できない
急性毒性：吸入（気体）	分類できない
急性毒性：吸入（蒸気）	分類できない
急性毒性：吸入（粉塵）	分類できない
急性毒性：吸入（ミスト）	分類できない
皮膚腐食性/刺激性	分類できない
眼に対する重篤な損傷/眼刺激性	分類できない
呼吸器感作性または皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	区分 1A 発がんのおそれ
生殖毒性	分類できない
特定標的臓器毒性（単回暴露）	区分 3（気道刺激性） 呼吸器への刺激のおそれ
特定標的臓器毒性（反復暴露）	結晶質シリカを吸入すると、珪肺症、肺がんなどの肺疾患を引き起こす可能性があります。
誤えん有害性	分類できない

環境に対する有害性

水生環境急性有害性（急性）	分類できない
水生環境急性有害性（長期）	分類できない
オゾン層への影響	分類できない
分類以外の有害性	なし

3. 組成および成分情報

単一製品・混合物の区分	混合物	
一般名	粘土。天然粘土鉱物、石英(結晶)を含む	
成分名	CAS 番号	含有量
レッドリーンクレイ*		100%
シリカ、結晶性石英	14808-60-7	15-40%
シリカ(結晶) クリストバライト	14464-61-1	1-5%

*シルトや砂の含有量が比較的多く可塑性が低から中程度の赤みのある粘土。

本製品は 100%粘土で構成されており、結晶性シリカを含みます。本製品は採掘されたものであり、その組成は自然に変化します。結晶質シリカは、吸引した場合には発がん性があると考えられています。本製品はそのままの湿潤な状態で維持し、切り出し、削り、研磨等の粉塵を吸引する可能性のある作業を避けるように注意してください。

4. 応急措置

応急措置	
一般的助言	汚染された衣服を脱ぐこと。
吸入した場合	新鮮な空気のある場所に移し安静に努める。刺激が残る場合には医師の診断を受ける。
皮膚に付着した場合	石鹸と水でよく洗うこと。衣服は再使用の前に洗うこと。
眼に入った場合	清浄な流水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。症状が続く場合、眼科医の診断を受ける。
飲み込んだ場合	口をゆすぐ。大量に飲み込んだ場合は医師の診断を受けること。
重要な症状と影響	本製品は緊急性のある有害性に関して非分類であり、重大な症状は予想されない。
医師への注意事項	症状に応じた治療を行う。

5. 火災時の措置

	本製品は不燃性で火災の危険性はない。
消火剤	粉末、泡、二酸化炭素、霧状水等周囲の物に適正な消火剤を用いる。特殊な消火剤は必要としない。
使ってはならない消火剤	棒状水を用いない。(周辺への飛散)
火災時の特定危険有害性	なし
特定の消火方法	なし
消火を行う者の保護	消火作業では適切な保護具(陽圧式呼吸具、手袋、眼鏡、マスク等)を着用する。消火の際は風上を維持し低地を避ける。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項	「8. 暴露防止及び保護措置」記載の設備対策を行い、保護具を着用する。粉塵を吸い込まないようにすること。眼と皮膚に付着しないよう注意する。
環境に対する注意事項	安全が確保された後に、河川、湖沼、地下水等に流入しないようにする。大量に流入する場合は、関係当局に連絡する。
除去方法	漏出物を除去する際に、必要に応じて個人用保護具を使用する。シャベル・ホウキなどを用いて掃き集め回収し再利用するか残土として廃棄する。汚染表面を丁寧に清掃し、残留物を水で洗い流す。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	「8. 暴露防止及び保護措置」記載の設備対策を行い、保護具を着用する。作業は換気の良い場所で行う。
安全取扱注意事項	吸い込んだり、眼や皮膚、衣服に触れないよう十分注意する。マスク、保護衣、保護靴、保護手袋、保護眼鏡等を着用する。作業後は手を洗うこと。作業場での飲食、喫煙を避ける。 <u>取扱い時に粉塵とならぬよう湿潤な状態を維持する。</u>
保管	
適切な保管条件	換気が良く、乾いた場所に保管する。施錠して保管すること。子供の手が届かぬようにすること。粉塵が蓄積せぬよう適切な清掃を行う。 <u>保管時に粉塵とならぬよう容器内で湿潤な状態を維持する。</u>

8. 暴露防止及び保護措置

許容濃度	
日本産業衛生学会 2021	(製剤) 設定されていない
厚生労働省告示	(成分) 結晶質シリカ 日本産業衛生学会 粉塵の許容濃度 0.03mg/m ³ 設定されていない
暴露限界	製品について既知の暴露限界はない
含有成分の暴露限界	SiO ₂ OSHA および MSHA 許容暴露限界値 10mg/m ³ % SiO ₂ + 2 (8 時間 TWA) ACGIH - TLV 0.05 mg/m ³ (8 時間 TWA) NIOSH 0.05mg/m ³ (10 時間 TWA, 週 40 時間労働時) ※OSHA : 米国労働安全局 ※ACGIH : 米国産業衛生専門家会議 ※MSHA : 米国鉱山安全衛生管理局暴露限界値 ※TWA : 8 時間加重平均
曝露防止	室内で作業する場合は換気に努める。 シャワー、眼の洗浄設備を備えることが望ましい。
保護具	
呼吸器の保護具	粉塵を避け、必要に応じてマスクを着用する
眼の保護具	保護眼鏡 (ゴーグル型)、保護面
皮膚及び身体の保護具	長袖保護衣、保護手袋、保護眼鏡を着用。
適切な衛生対策	取り扱い後は手を良く洗う。汚染した衣服は洗濯する。 製品使用時及び保管時に粉塵とならぬよう湿潤な状態を維持する。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	固体。粒状粘土。
色	暗赤色～紫色
臭い	なし
融点/凝固点	データなし
沸点又は初留点および沸騰範囲	データなし
可燃性	不燃性
爆発限界及び爆発上限界/可燃限界	データなし
引火点	分類対象外
自然発火点	分類対象外
分解温度	分類対象外
pH	データなし
動粘性率	分類対象外
溶解度	ごくわずか (<0.1%)
n-オクタノール/水分配係数(log 値)	分類対象外

蒸気圧	分類対象外
密度及び/又は相対密度	0.8～1.6g/cm ³ (比重)
相対ガス密度	データなし
粒子特性	分類対象外

10. 安定性及び反応性

反応性	規定・指示通りに保管・取り扱いすれば、危険な反応はない 金属に対する腐食性はない
安定性	通常の使用条件、輸送条件で安定
避けるべき条件	子供の手の届かぬようにする。 強酸、酸化剤との混合を避ける。未反応のポリマー、モノマーを避ける。
危険有害分解生成物	危険な生成物は知られていない
他の物質との重合	データなし。発生しないと考えられる。

11. 有害性情報

急性毒性推定値 (ATE)	製剤 (経口) 3160mg/kg < LD ₅₀ ラット 製剤 (静脈注射) 15mg/kg < LD ₅₀ ラット
局所効果	製剤 (経皮) データなし 吸入毒性 (製剤) データなし 眼刺激性 データなし 皮膚刺激性 データなし
感作性	データなし
慢性毒性 (最大無作用量)	データなし
発ガン性	(製剤) データなし 結晶質シリカは日本産業衛生学会の発がん性分類第1群相当 国際がん研究機関 (IARC) は結晶質シリカ(石英、クリストバライト)をグループ1の発がん性物質に分類
変異原性	データなし
催奇形性	データなし
生殖毒性	データなし
特定標的臓器毒性	単回暴露 データなし
特定標的臓器毒性	反復暴露 データなし

※本製品は通常の使用条件では有意な有害性を示さないものと考えられる。

※本製品には最大 40%の結晶質シリカが含まれています。IARC (国際がん研究機関) は、結晶質シリカのヒトに対する発がん性を示す十分な証拠があるとしています。しかし、この報告で調査した全ての産業環境において、発がん性が検出されなかったと記しています。

結晶シリカは珪肺症を引き起こすことが知られています。本製品に含まれる結晶シリカは、推奨される PEL 以下の粉塵レベルであれば、健康への危険はないものと考えられます。

本製品を含む過度な濃度の粉塵を吸入すると、肺に損傷を与える可能性があります。用途と暴露データは、結晶シリカを含む本製品の成分の通常の使用における吸入性石英への暴露が、OSHA 許容暴露限界値 (PEL) と ACGIH 閾値 (TLV) をはるかに下回ることを示しているため、本製品は、通常の使用および磨耗により吸入可能な結晶質シリカの粉塵が発生することはないと思われます。

12. 環境影響情報

分解性	データなし
生体濃縮性	データなし

13. 廃棄上の注意

廃棄の方法

残余廃棄物	廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体に委託して処理する。
容器・包装	関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

1 4. 輸送上の注意

国際規制	
国連分類	該当しない
国連番号	該当しない
国際海上危険物規程	該当しない
国際民間航空機関危険物輸送規則	該当しない
国内規制	陸上輸送、海上輸送、航空輸送に制限はない。
航空法規則	該当しない
危険物船舶運送及び貯蔵規則	該当しない
輸送の特定の安全対策及び条件	転倒、落下、摩擦等で包装が破損しないように積み込み、荷崩れ防止を確実にを行い、有蓋車又はシート等を掛けて運搬する。水濡れを避ける。

1 5. 適用法令

肥料取締法	該当しない	
労働安全衛生法	該当する	名称等を通知すべき危険物及び有害物 165-2 結晶性シリカ 0.1%以上に該当
	該当する	名称等を表示すべき危険物及び有害物 165-2 結晶性シリカ 0.1%以上に該当
毒物および劇物取締法	該当しない	
化学物質排出把握管理促進法	該当しない	
航空法規則	該当しない	
危険物船舶運送及び貯蔵規則	該当しない	
輸出貿易管理令（キャッチオール規制）	該当しない	
SOLAS 条約（海上人命安全条約）	該当しない	

1 6. その他の情報

この安全データシートは Diamond Pro 社から提供された SDS (2018/12/19) を元に JIS7073 (2019) に準拠して作成したものです。

安全データシートは、化学製品を安全に取り扱うための参考資料として、この化学製品を取り扱う事業者提供されるものであり、安全を保障するものではありません。また、記載された数値は規格値や品質を保証する数値ではありません。

この安全データシートは、一般に入手可能な情報および自社情報に基づいて作成しておりますが、本製品に関するすべての情報が網羅されているわけではありません。また、記載内容は本製品の一般的な取扱いについて記載したものです。従って、当該製品を取り扱う事業者は、個々の取扱いの実情に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、この安全データシートを活用されることをお願い致します。

以上